



宿毛まちのえき 林邸



ご利用案内

開館中はどなたでもご自由にご入館いただけます。
専有希望の場合は下記の通り部屋毎にレンタル可能です。



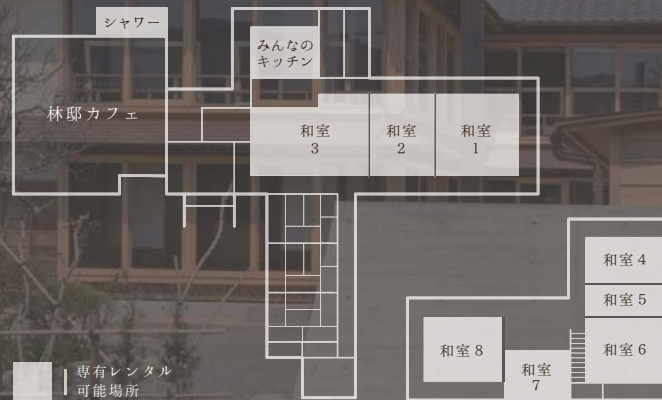
林邸カフェ



みんなのキッチン



和室



	場所	広さ	料金
1階	みんなのキッチン	6畳	1時間500円
	和室1	10畳	
	和室2	8畳	
	和室3	14畳	
2階	和室4	6畳	1時間300円
	和室5	4畳	
	和室6	8畳	
	和室7	4畳半	
	和室8	8畳	

	設備	料金
	屋外シャワー	1回100円
	冷暖房(和室及びキッチンスペース)	1時間100円/1室

宿毛まちのえき 林邸

営業時間 9:00~17:00
(休館日: 月曜(祝日の場合は翌日)、12/29~1/3)



土佐くろしお鉄道宿毛線
東宿毛駅より徒歩15分
車でお越しの方
高知市より車で約2時間40分
松山市より車で約2時間50分

〒788-0001 高知県宿毛市中央3-1-3

TEL: 0880-79-0563 MAIL: hayashitei@md.pikara.ne.jp

<http://www.city.sukumo.kochi.jp/hayashitei/index.html>



写真: 浅川敏(2・3・4・5頁) / 早稲田大学古谷誠章研究室(1・6・7・8頁)
製作: 早稲田大学古谷誠章研究室



近代日本の政治を支えた 特徴的な空間

当時の政治家支援者の集いの場だった林邸には、連続する大きな座敷や、客座敷・宴席のための「月見の間」の他にも、刺客に備える見張り番が控える正面玄関上の「見張り部屋」や、一階と二階をつなぐ隠し梯子など、独特の機能を多彩かつ優美に盛り込んだ建築となっています。また、これだけの規模の歴史的な住居建造物は宿毛市内ではもちろんのこと、高知県内にも残されておらず、地域の記憶装置としても重要な役割を担っています。

歴史と記憶を未来へ継承する 住民活動の場へ

平成二九年（二〇一七）に早稲田大学建築学科古谷誠章研究室によるワークショップが開催され、貴重な歴史や地域の記憶を未来へと継承するために地域住民の意見が集められました。単に昔の姿を保存・復元するだけではなく、地域の人たちの活動や歴史が今後も紡がれていく場所として生まれ変わることになりました。

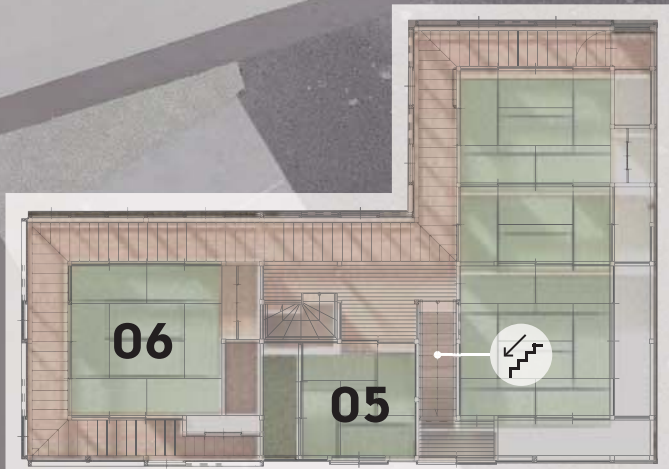


歴史的価値を持ちながらも 市民に親しまれた林邸

林家は近代日本で初めて、林有造、讓治、道と三代続けて大臣を輩出し、親類の吉田茂、竹内明太郎らと共に近代日本の発展をリードした一家です。林邸は林有造の邸宅として明治二十二年（一八八九）に建設されました。以来一三〇年に渡り、自由民権運動の系譜を連続と引き継ぐ邸宅として親しまれてきました。この度、林邸は宿毛市へ寄贈され、より開かれた場として再生されることになりました。

林邸案内絵図

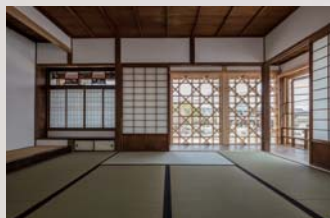
生まれ変わった林邸の各室の所縁、
見どころをご紹介します。
あなたの好きな場所、居心地の良い場所はどこですか？



2F



05 一見張り部屋
政治家の家ならではの部屋。玄関を見下ろして、刺客や不審者をここで見張っています。と言われています。



06 一月見の間
明治期には東側の松田川と月を愛でながら宴会ができる部屋として使われていました。

- お手洗い
- シャワー
- 階段
- 受付



01 林邸カフェ
円形キッチンを囲みながら光に溢れた空間で飲食を楽しむことができます。



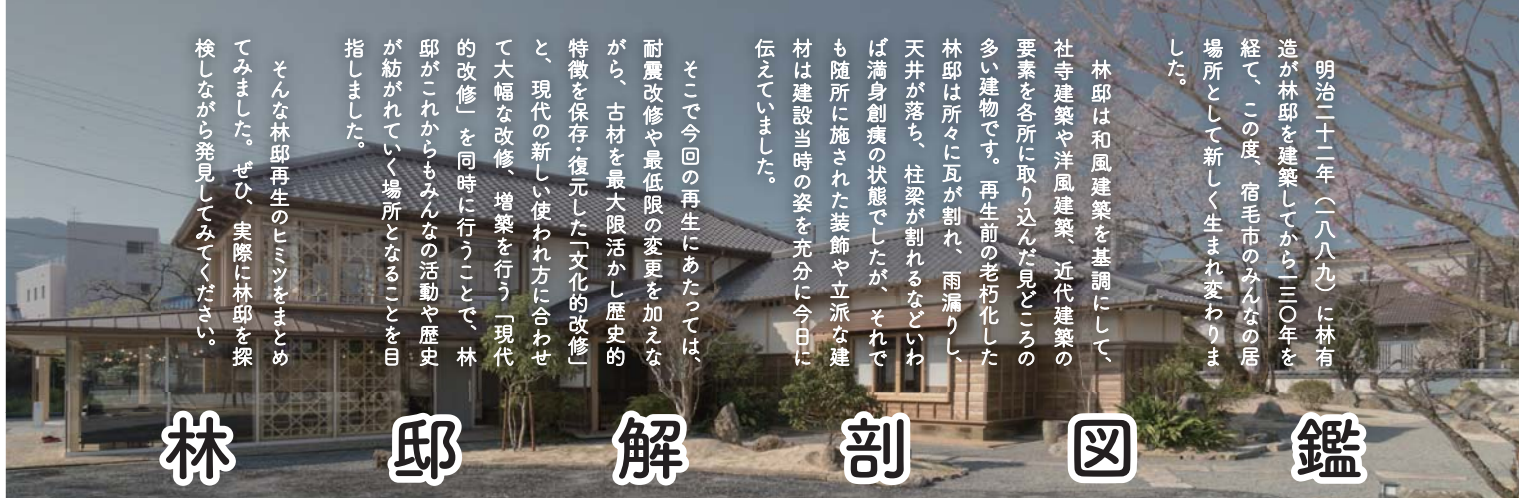
02 みんなのキッチン
大人から子供まで皆で楽しめるレンタルキッチンスペース。南庭に出て屋外と一体に使うことができます。



03 一座敷
大きく座敷を使った懇親会や、お茶会など様々な活動の拠点として生まれ変わりました。



04 一資料室
林家と林邸や周辺史跡などに関する資料を庭を眺めながらゆったりとご覧いただけます。



林 邸 解 剖 図 鑑

明治二十二年（一八八九）に林有造が林邸を建築してから三〇年を経て、この度、宿毛市のみんなの居場所として新しく生まれ変わりました。

林邸は和風建築を基調にして、社寺建築や洋風建築、近代建築の要素を各所に取り込んだ見どころの多い建物です。再生前の老朽化した林邸は所々に瓦が割れ、雨漏りし、天井が落ち、柱梁が割れるなどいわば満身創痍の状態でしたが、それでも随所に施された装飾や立派な建材は建設当時の姿を十分に今日に伝えていました。

そこで今回の再生にあたっては、耐震改修や最低限の変更を加えながら、古材を最大限活かす歴史的特徴を保存復元した「文化的改修」と、現代の新しい使われ方に合わせて大幅な改修、増築を行う「現代的改修」を同時に行うことで、林邸がこれからもみんなの活動や歴史が紡がれていく場所となることを目指しました。

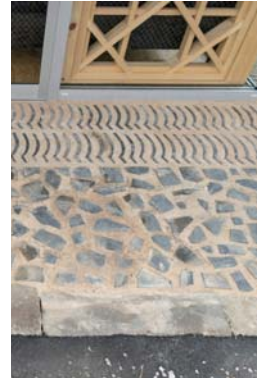
そんな林邸再生のヒミツをまことめました。ぜひ、実際に林邸を探検しながら発見してみてください。

瓦のはなし

正面玄関にある林家の家紋が刻まれた鬼瓦は当時のものを焼き直して再利用。その際に割れないよう、裏側に補強材を入れてから、修繕しています。玄関の屋根はとても珍しい丸みのある形をしています。



カフェスペース外側の犬走りには、かつて的林邸の瓦を活用しています。瓦を立てて側面を見せたり、ランダムに割って瓦の表面を見せたり、カフェの周囲を楽しく彩りました。



桜の木の行方

座敷に設けた戸の縁に使えるように、正面玄関の柱で使われていた桜の木を再加工。有造の兄から送られてきたもので、樹齢一五〇年、なんと三〇〇年前に植えられた木と言われています。また座敷の框など随所に桜の木が使われています。



兄から送られた木材

林邸の欄間や建具材等に多用されているタモ材は北海道庁長官の有造の兄、岩村通俊から送られたものです。今でも使える立派な材料は、汚れをきれいに洗い流して再利用しています。



透ける耐震壁

現在の建築基準法の耐震基準に合わせるには大掛かりな耐震補強が必要でしたが、むやみに壁を増やすと広々とした雰囲気損なわれてしまいます。そこで、東大・稲山正弘教授のご協力のもと、透明な強化ガラス耐力壁と、伝統的空間にマッチする組子細工耐力壁を使い分け、林邸の持つ開放感を活かせる耐震改修としました。



箱段の苦勞

正面玄関右手には立派な箱段（引き出し付きの階段）があります。改修にあたり、現在の建築基準法に合わせて階段の一段ずつを低くするため、実は一段増やしてあります。箱段を開けてみて、その痕跡をご覧ください。



開けてみよう！

隠し梯子のヒミツ

林邸に集った政治家を狙う刺客から逃れるため、廻り階段以外にも、二階座敷の床の間を外すと一階への逃げ道が用意してありました。こっそり覗いてみてくださいね。



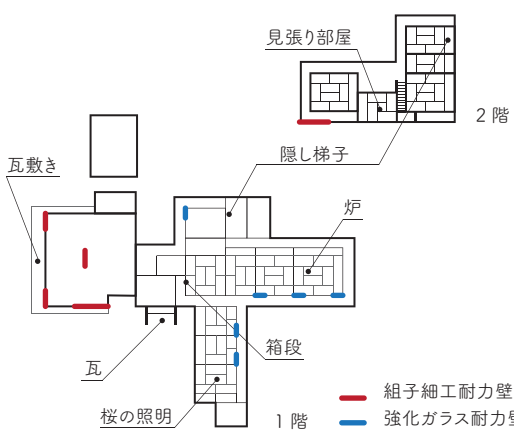
父の庭絵図

左の庭絵図は林邸の庭によく似ていますが実は別の庭で、有造の父・岩村英俊が描き、林家に保管されていました。このことから、林邸建設の庭づくりの際に参考されたものと推測されます。



資料提供：高知みらい科学館 高橋信裕館長

見所のありか



大工さんの遊び心

改修を担当した大工さんが、遊び心に溢れた修繕を随所にしてくれました。例えば階段の手すりに巻かれた紐は、宿毛の漁師さんが使う網と同じもの。照明器具を天井に取り付ける部分は一箇所だけ、庭の桜にちなんだ彫刻があしらわれています。傷んで空いた正面玄関扉の穴には、満ち欠けするお月さまが。更に玄関をよーく探してみると…たるま夕日も見つけられるかも!?



林家・家紋の由来

林家の家紋は有造と兄・岩村通俊、岩村高俊の三名を表した家紋。この家紋をあしらった装飾が邸内の各所に施されています。ぜひ探してみてください。



設計者からひとこと

三代にわたり大臣を輩出した林家は、大隈重信とともに早稲田大学を創立した小野梓や、同じく理工学部の創設を呼びかけた竹内明太郎とも、とてもゆかりが深いのです。このたび、研究室の大学院生たちとともに、築三〇年の旧林家住宅を、現代に蘇らせるプロジェクトに関わらせていただいたご縁を、とても嬉しく思います。学生たちもとても多くの貴重な学びを体験いたしました。建築とは、それ自体が記憶装置と言えます。この林邸が将来にわたって残り、人々が使い続け、人々がじかにその空間を体験することを通して、自由民権運動が花開いた近代日本の黎明期を、生き生きと思い起こすことができます。

これからも内外からここに集うみなさんが、宿毛のそして日本の、過去と未来を結び、大切な錢（かすがい）となってくれたことを願っています。

古谷誠章 建築家・早稲田大学教授



取材協力

- 細木茂／細木建築研究所（設計監理協力）
- 稲山正弘＋東京大学大学院木質材料科学研究室（構造設計）
- 山本効／勇・富士特定建設工事共同企業体代表（施工）
- 浦田康裕／小島瓦左官工業（瓦工事）